

## 7. 値ラベル

定義された各変数の値にもラベルを貼ることができます。変数ラベルと同様に、日本語でもローマ字でも可能で、日本語の場合には二重クォーテーションで囲み、ローマ字の場合は一重のクォーテーションでもかまいません。

具体的な作業手順は、つぎのとおりです。

① `variable labels` コマンドに続けて `value labels` コマンドをおきましょう（理論的には、`data list` コマンドの後ろであれば、`variable labels` の前でもよい）。

基本的な書式は、

```
value labels 変数名 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” /
            変数名 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” .
```

クォーテーションの外にあるスペースは、必ず半角で入力してください。半角スペースはいくつ打ってもかまいません。全角スペースはエラーとなります。

### 【変数リストの利用】

いくつかの変数が同じ値を持っているとき、変数名の代わりに変数リストを入れることができます。

変数リストには、変数をたんに並べる方式と、`to` 表記によって連続している変数群をまとめて指示する方法とがあり、両方式は混在してもかまいません。

(1) 変数リスト（変数を並べる方式）を用いた `value labels` コマンドの例。

```
value labels 変数1 変数2 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” .
```

具体例として、図7の(1)では、

```
q8 q9 1 “週1回以上” 2 “月1回以上” 3 “年4回以上” 4 “年1回以上”
5 “会わなかった” 6 “同居” 7 “両親なし”
```

となっています。q8 と q9 がたまたま同じ値ラベルをもっており、まとめて指定しています。

(2) 変数リスト（`to` 表記）を用いた `value labels` コマンドの例。

```
value labels 変数1 to 変数5 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” 値 “値ラベル” .
```

to 表記は、定義された変数が連続している場合にのみ使うことができます。ここで、変数の順番は、data list に並んでいる順番を意味します。たとえば、data list コマンドで v1 v2 v3 v4 v5 と並んでいれば、v1 to v5 は、v1 から v5 までの5つの変数を意味します。かりに v1 v3 v5 v2 v4 と並んでいれば、v1 to v5 は v1 v3 v5 の3変数、v1 to v4 なら v1 v3 v5 v2 v4 の5変数となるので注意してください。

具体例として、図7の(2)では、

```
q20a to q20i 1 "非加入" 2 "加入" 3 "積極参加"
```

となっています。q20a から q20i までの9変数がすべて、1=非加入、2=加入、3=積極参加というコードになっており、まとめて値ラベルを指定しています。

図7 value labels の具体例 ((1)、(2)は本文の説明との対応をつけるために加えたものでコマンド・シンタックスではない)

```
value labels
```

```
chiten 1 "港区" 2 "大田区" 3 "世田谷区" 4 "清瀬市"  
5 "あきる野市"/
```

```
q1 1 "未婚" 2 "既婚" 3 "離別" 4 "死別"/
```

```
q3 to q6 1 "いる" 2 "いない"/
```

```
q7 1 "同居" 2 "同一区内" 3 "都内" 4 "3県内" 5 "首都圏内"  
6 "その他" 7 "他界"/
```

```
q8 q9 1 "週1回以上" 2 "月1回以上" 3 "年4回以上" 4 "年1回以上" (1)  
5 "会わなかった" 6 "同居" 7 "両親なし"/
```

```
q10 1 "同居" 2 "同一区内" 3 "都内" 4 "3県内" 5 "首都圏内"  
6 "その他" 7 "配偶者両親なし" 8 "配偶者なし"/
```

```
q11 q12 1 "週1回以上" 2 "月1回以上" 3 "年4回以上" 4 "年1回以上"  
5 "会わなかった" 6 "同居" 7 "配偶者両親なし" 8 "配偶者なし"/
```

```
q20a to q20i 1 "非加入" 2 "加入" 3 "積極参加"/ (2)
```

```
q21a to q21c 1 "現在積極参加" 2 "現在加入" 3 "過去積極参加"  
4 "過去加入" 5 "非加入"/
```

```
q22a to q22e 1 "参加" 2 "非参加"/
```

```
q23 1 "ある" 2 "ない"/
```

```
q24a to q24i q27 1 "賛成" 2 "やや賛成" 3 "やや反対" 4 "反対"/
```

```
q25 1 "同居がよい" 2 "別居がよい"/
```

```
q26 1 "家庭専念" 2 "子どもできるまで" 3 "就労継続"/
```

```
q30 q35 1 "持ち家" 2 "分譲マンション" 3 "民間借家" 4 "賃貸マンション"  
5 "公営賃貸" 6 "公団賃貸" 7 "民間賃貸" 8 "社宅・官舎" 9 "その他"/
```

q33 1 “暮らしたい” 2 “移りたい”/  
q34 1 “生まれてからずっと” 2 “同一区市内” 3 “都内” 4 “3県内”  
5 “首都圏” 6 “その他”/  
q34sq q36sq 1 “千代田区” 2 “中央区” 3 “港区” 4 “新宿区” 5 “文京区”  
6 “台東区” 7 “墨田区” 8 “江東区” 9 “品川区” 10 “目黒区”  
11 “大田区” 12 “世田谷区” 13 “渋谷区” 14 “中野区” 15 “杉並区”  
16 “豊島区” 17 “北区” 18 “荒川区” 19 “板橋区” 20 “練馬区”  
21 “足立区” 22 “葛飾区” 23 “江戸川区” 24 “八王子市” 25 “立川市”  
26 “武蔵野市” 27 “三鷹市” 28 “青梅市” 29 “府中市” 30 “昭島市”  
31 “調布市” 32 “町田市” 33 “小金井市” 34 “小平市” 35 “日野市”  
36 “東村山市” 37 “国分寺市” 38 “国立市” 39 “田無市” 40 “保谷市”  
41 “福生市” 42 “狛江市” 43 “東大和市” 44 “清瀬市” 45 “東久留米市”  
46 “武蔵村山市” 47 “多摩市” 48 “稲城市” 49 “羽村市”  
50 “あきる野市” 51 “瑞穂町” 52 “日の出町” 53 “檜原村”  
54 “奥多摩町” 55 “大島町” 56 “利島村” 57 “新島村” 58 “神津島村”  
59 “三宅村” 60 “御蔵島村” 61 “八丈村” 62 “青ヶ島村” 63 “小笠原村”/  
q36 1 “現住所” 2 “同一区市内” 3 “都内・都下” 4 “埼玉・千葉・神奈川”  
5 “栃木・茨城・群馬・山梨” 6 “その他”/  
q37 1 “市” 2 “町” 3 “村”/  
q38 1 “1945年以前” 2 “1945-1959年” 3 “1960年代” 4 “1970年代”  
5 “1980年以降”/  
q39 1 “住み続けたい” 2 “移りたい”/  
q41 1 “単身” 2 “夫婦のみ” 3 “夫婦と未婚子” 4 “3世代” 5 “その他”/  
q42a 1 “男性” 2 “女性”/  
q42b 1 “20-24” 2 “25-29” 3 “30-34” 4 “35-39” 5 “40-44” 6 “45-49”  
7 “50-54” 8 “55-59” 9 “60-64” 10 “65-69” 11 “70-”/  
q43 q53 q56 1 “中学卒” 2 “高校卒” 3 “短大卒” 4 “大学卒”/  
q44 q54 q57 1 “自営業主” 2 “家族従業員” 3 “正社員” 4 “経営者”  
5 “嘱託・派遣” 6 “パート” 7 “自由業” 8 “無職・学生”/  
q45 q58 1 “自分1人” 2 “家族従業員” 3 “4人以下” 4 “5-29” 5 “30-299”  
6 “300-999” 7 “1000人以上” 8 “官公庁”/  
q47 q59 1 “役職なし” 2 “監督・職長” 3 “係長” 4 “課長” 5 “部長”  
6 “経営者” 7 “その他”/  
q48 q60 1 “専門” 2 “管理” 3 “事務” 4 “販売・営業” 5 “サービス”  
6 “技能・労務” 7 “保安” 8 “農林漁業” 9 “その他” 10 “無職・学生”/  
q49 1 “自宅” 2 “30分以内” 3 “30分-1時間” 4 “1-2時間” 5 “2時間以上”  
6 “決まった場所なし”/  
q52 1 “-100” 2 “100-300” 3 “300-500” 4 “500-700” 5 “700-900”  
6 “900-1100” 7 “1100-1300” 8 “1300-”/  
q55 1 “専門” 2 “管理” 3 “事務” 4 “販売・営業” 5 “サービス”

6 “技能・労務” 7 “保安” 8 “農林漁業” 9 “無職” 10 “その他” /  
q61 1 “-300” 2 “300-500” 3 “500-700” 4 “700-900” 5 “900-1100”  
6 “1100-1300” 7 “1300-1500” 8 “1500-”.

②値ラベルのエラーチェックをする。

変数ラベルのエラー・チェックと同様に、エラーのチェックをしておきましょう（6-③参照）。

#### 【テクニック② シンタックスエディタ上での文字列のコピー】

シンタックス・エディタ上で文字列をコピーする場合、つぎのような操作でできます。

- ①コピーしたい文字列の先頭にカーソルをおき、
- ②[Shift]キーを押しながらカーソルを移動して、コピーしたい文字列を照度反転させて範囲を指定する。
- ③つぎに、[Ctrl]+[C]を押すと、指定された文字列がクリップボードに積み込まれ（画面ではみえない）、
- ④コピーしたい位置にカーソルを移動させて[Ctrl]+[V]を押すと、その場所に挿入コピーされる。

このテクニックは、たいていのエディタやワープロソフトに共通しているので、覚えておくと便利です。

#### 【テクニック③ シンタックスエディタ上での文字列の移動】

同様に、シンタックス・エディタ上で文字列を移動（カット・アンド・ペースト）する場合、

- ①移動したい文字列の先頭にカーソルをおき、
- ②[Shift]キーを押しながらカーソルを移動して、移動したい文字列を照度反転させて範囲を指定する。
- ③つぎに、[Ctrl]+[X]を押すと、指定された文字列がカットされて（つまり画面から消える）、クリップボードに積み込まれ、
- ④移動先にカーソルをおいて、[Ctrl]+[V]を押すと、その場所に移動したい文字列が挿入される。